

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2025年第19週 (5月5～11日)

(国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数／累積。累積は2025年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	153	4635
[3類]		
コレラ		3
細菌性赤痢	2	19
腸管出血性大腸菌感染症	22	471
腸チフス	2	9
パラチフス	1	3
[4類]		
E型肝炎	5	203
A型肝炎	3	55
エキノコックス症		9
エムボックス ¹⁾		1
オウム病		3
回帰熱		2
コクシジオイデス症		1
重症熱性血小板減少症候群	6	23
チクングニア熱		6
つつが虫病	3	50
デング熱	2	53
日本紅斑熱	17	53
ボツリヌス症		1
マラリア		7
レジオネラ症	29	588
レプトスピラ症		1
[5類]		
アメーバ赤痢	2	166
ウイルス性肝炎 ²⁾	4	76
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	15	574
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾		9
急性脳炎 ⁵⁾	6	234
クリプトスポリジウム症	1	8
クロイツフェルト・ヤコブ病		59
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	14	600
後天性免疫不全症候群	8	270
ジアルジア症		11
侵襲性インフルエンザ菌感染症	7	295
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	31
侵襲性肺炎球菌感染症	69	1762
水痘 (入院例に限る)	11	210
梅毒	124	4755
播種性クリプトコックス症	2	58
破傷風		26
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	34
百日咳	1792	16475
風しん		6
麻疹	11	116
薬剤耐性アシネトバクター感染症		4

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウェストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数／定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	2580	0.67
新型コロナウイルス感染症	3604	0.94
RSウイルス感染症	710	0.30
咽頭結膜熱	934	0.40
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4667	1.98
感染性胃腸炎	13636	5.78
水痘	1190	0.50
手足口病	189	0.08
伝染性紅斑	2680	1.14
突発性発しん	706	0.30
ヘルパンギーナ	62	0.03
流行性耳下腺炎	140	0.06
急性出血性結膜炎	27	0.04
流行性角結膜炎	523	0.75
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	8	0.02
無菌性髄膜炎	9	0.02
マイコプラズマ肺炎	158	0.33
クラミジア肺炎 ⁸⁾	2	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) ⁹⁾	106	0.22
急性呼吸器感染症	182709	47.63
インフルエンザ (入院患者)	53	—
新型コロナウイルス感染症 (入院患者)	449	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	沖縄、秋田、福島
新型コロナウイルス感染症	↓	岐阜、新潟、山梨
急性呼吸器感染症	↓	栃木、岩手、宮城
RSウイルス感染症	↓	沖縄、鹿児島、新潟
咽頭結膜熱	↑	宮崎、福井、鹿児島、愛媛
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	茨城、栃木、愛媛
感染性胃腸炎	↓	岐阜、大分、愛媛
手足口病	↓	奈良、北海道、沖縄
伝染性紅斑	↓	栃木、宮城、山形、北海道
ヘルパンギーナ	↑	沖縄、長崎、島根
流行性耳下腺炎	↓	宮崎、滋賀、愛媛、熊本
マイコプラズマ肺炎	↑	福井、秋田、広島

◆5類感染症 (定点当たり報告数)

インフルエンザの定点当たり報告数は3週連続で減少し、新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は第6週以降減少が続いている。伝染性紅斑の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。